

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200874		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム西奈		
所在地	静岡県静岡市葵区瀬名中央一丁目4番3号		
自己評価作成日	平成27年12月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&jigyosyoCd=2294200874-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットのグループホームなので、職員が身近に感じられるようなケアを心がけています。少人数ゆえに細かなご依頼にも個々に対応できるような体制・環境作りをしています。向かいが保育園とのこともあり、ご近所との交流も積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前の保育園からは愛らしい声が届き、法人が敷いたレクメニューの豊富さで彩りも備わった暮らしがつつがなく続く事業所です。法人理念の「生きがい〜」は「自由であること」「本当の自分であること」と意味が紐解かれ、ホーム長の懐の深さとリーダーの誠実さを以て職員にも叶っており、「顧客満足は従業員満足から」が実践されている点が長所です。働きやすい風土からは自然に企画や提案が上り、例えば現在利用者と職員とで古着の浴衣を割いて苮とし手作りしているクッションはパートタイマー職のアイデアです。結ぶ作業では殊の外指が動くことが判り、生活リハビリが愉しくできるメニューとして確立しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が載っている「困ったときのお助け本」を全員に配布し各会議の初めに職員で唱和し、常に理念を念頭において業務を行うように心がけています。	法人理念の「生きがい～」は “自由であること、 “本当の自分であること、と、意味が紐解かれ、センター長の懐の深さとリーダーの誠実さを以て職員自身にも叶っており、「顧客満足は従業員満足から」が実践されている点が長所です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会より地域の行事があるたびに案内を頂き、地域の一員として地域行事へ積極的に参加しています。毎月14日は「アクタガワの日」と称して地域清掃を行っています。	新任の自治会長は細目に訪れてくださり、最低でも月1度は顔を合わせています。瀬名中央町祭りで盆踊りや屋台を堪能し、南小学校区の運動会を見学したり、家族会で流しソーメン等、時節の催しものを通して交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の日々のご様子について説明しています。日頃のケアや対応の様子などお話しご理解いただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、活動報告や意見交換の場としてセンターの活動に活かしています。	隔月開催され、また後ろに防災訓練を組み込むことで自治会長に残ってもらおうとの工夫もあります。会議では「ドリアはチーズが高齢者には～」で「ではオムレツに～」、「それも～」と、小さなことでも聴取して役立てようとの姿勢を書面確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席してもらい、市町村担当者の出席をお願いして協力関係を築くように取り組んでいます。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の出席はありますが、市役所からはありません。双方に案内及び欠席の場合の議事録は提出しています。介護相談員を受入、例えば「体操はDVDよりも職員がやったら～」との貴重な進言を速やかに反映させています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チーム会議にて「身体拘束」についての研修を行っています。勤務の都合で会議に出席出来ない職員には資料を配布し申し送りをしています。	玄関に事務所がある設計に助けられていることもあり、玄関・ユニットともに施錠はありません。休憩は1時間しっかりとる態勢にありますが、性向でつい動いてしまう職員も現状おり、センター長が気づけば声をかけ休むよう促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止マニュアル」を作成し、常に注意を払い防止に努めています。高齢者虐待防止の自己チェックシートを使い年に5回全職員に虐待が無い事を確認しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については年間研修カリキュラムのなかで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については十分に時間をとっていただき内容について説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分時間を取り、本人や家族の様子について聞き取りをすると共に、契約の内容について説明しています。入居後は運営推進会議や家族会、アンケートを行い要望・意見を反映しています。	日常の面会で会話をもつ時間はとれていますが、家族会を年2回開き「一同に会することも大切」と考えています。ただ無理強いはいたくないとして現状は2～3組に留まり、食事や歓談でのんびりとした集まりとなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、月に毎月のチーム会議等で職員から意見や提案を聞き、運営に反映させている。又、目標管理の評価面談でも意見を聞くようにします。2ヵ月に1回業務改善提案書により職員から提案を集約しています。	個々の給与明細には業務提案書が毎月封入され、いつでも法人本部に進言できるよう仕組みが確立されています。また提案については本部配属のグループホームサービスバイザーが各事業所を訪問して直接回答くださるという手厚さです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「キャリアパスに基づく研修」を行い役割や資格によって評価がなされるような環境が整備されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ステップアップ研修や、スキルアップ研修(個別指導)、外部研修を受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講や、事業所連絡会へ出席し他事業所との交流・意見交換を行っています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り、寄り添いながら対話をしています。情報の蓄積をし、職員間で情報共有できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報交換に努め、望ましい対応についてご意見をお伺いしています。 入居前にお試し期間(1週間)を設け、ご希望ご意見をお伺いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談を行い、プランの提案をさせていただいた上、ご意見を伺いサービスの提供につなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対話・会話を重視し、ご意見を伺い日常生活をレクリエーションとして捉えた働きかけに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への報告や相談を大切にしている。情報の交換により、望ましい対応の思索に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元々生活していた地域になる施設であり、近隣の散歩や、ふれあい祭りの開催、地域行事への参加を通じて、なじみの人との交流をしています。	9時から18時と面会時間は決まっていますが過ぎても断ることなく歓迎しており、日中家族が迎えにきて自宅で昼食をとって戻る利用者もいます。また併設事業所から入所の人にとっては行事で交流があり、レクリエーションを一緒におこなうのが楽しみの一つです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、レクリエーションなど職員が入り、コミュニケーションが取りやすい様に配慮している。スタッフが間に入り会話を盛り上げるよう配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等のご案内・声掛けを心がけ、疎遠になってしまわぬよう意識しています。又、GH便りにより毎月の様子を伝えていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、寄り添い対話をし、ご要望に沿えるようチームコミュニケーションを円滑に保てるよう努めています。	会話が成り立たない人には表情や振舞から察し、さらに「チーム会議を通じて統一できるように」と心がけています。「肉が食べたい」希望からステーキを食したところ、いつまでも「旨かった」と言ってくれるのが嬉しいとのエピソードが取組みを物語っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を、日々の語らいや、ご家族との会話の中から拾い上げていき、ケアへと結びつけていけるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護経過記録用紙を用いると共に、お客様の申し送りノートを活用し職員が統一できるアセスメントを重視しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行い、カンファレンスの中で意見やアイデアを出し、介護計画に反映できるように努めています。	専用のカンファレンスシートを用いて担当制はとらずに全員でモニタリングをおこない、計画作成担当者がプラン化しています。2表の内容が施設サービス計画実施チェック表に反映するシステムをもち、確かな推進のバックアップがあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をパソコン上で管理し、職員間で情報を共有しています。また、ケアプラン実施表を活用し、ケアプランの意識付けを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、理美容手配やカルチャー教室、イベント参加などの取り組みをしています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣店舗での買い物や、お散歩時のご挨拶を心掛け、地域行事への積極参加に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、歯科医との連携はとれている。 ご家族にて対応が困難な時は職員が通院の介助も行っています。	24時間オンコールで月2回往診のある協力医に8名が変更しています。1名となるかかりつけ医も月1回往診があり、看取りへも理解がある医師のため安心です。協力医の傘下の訪問看護も週1回訪れ、医療連携が図られています。	「受診状況や投薬内容ならびに日常の健康管理をもっと詳しく知りたい」との希望のある家族もあるようですので、医療情報の報連相について改めて検証することを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、訪問看護師との連絡を密にし、緊急時には電話での24時間の連絡体制がとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員との情報交換を行い、退院後の処置や、対応に関して主治医に相談し決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、グループホーム、主治医をつなぐ往診記録の提示を行っています。起こり得る変化についても主治医のご意見を伺い、ご家族の意向確認をしています。	契約時には看取りをおこなう事業所であることは伝えますが、家族には見えない遠い話であるため、詳しいことは心身の状態変化に応じてとしています。日常のプラン作成同様、本人と家族、職員の考えも含み三位一体での取組みを大切に考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通じて対応の確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施しており、ご家族や地区民生委員や町内の方にも参加して頂き、緊急時は協力が得られるようにしています。	年2回実施の防災訓練は夜間想定もおこない、また運営推進会議と同日に実施して家族や近隣の皆さんにも加わってもらっています。地域の訓練にも出て、さらなる親交も推進しています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇は全体会議での研修の実施や、外部講師によるマナー研修を行い対応しています。	訪問時にも明るい歓迎の挨拶があり、どの職員もアイコンタクトと言葉かけができています。食事中手遊びをしてしまう利用者に配慮ある対応があり、またその人の動きを待っての思慮ある動きをおこなう男性職員も視認しました。	エプロンは致し方ないとしても止めるものが洗濯バサミだったのは残念です。一部の職員の応急措置的判断だったようですが、今後は「やめておこう」という対応が浸透することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様と話し合い、自己決定や選択ができるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、寄り添いながら対話をし、ご希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員付き添いでの外出による理美容、または訪問理美容を実施しています。また、衣類は個人の持ち込みとして、ご本人が気に入った洋服を自分で選んでいただく様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と共に席に着き、食事が楽しく取れるようにしています。片付けなども一緒に行っています。 お楽しみ食やおやつ作りもお客様と一緒にしています。毎月外食にもかけています。	食材は業者からメニューとともに入り、職員が調理しています。訪問当日は男性職員が担当でしたが、味付けが気にいっているのか完食でした。食事介助が必要な人が3名となりましたが時間でおこなう必要はないとし、ゆったりと関わっているのが印象的でした。	1日3食でバランスをとっているのかも知れませんが、食材が人参、キャベツ、玉ねぎ、魚というのは目にも足りなく、緑のものや芋類も欲しく感じます。食材の仕入れとメニュー構成について改めての検討を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配送業者よりカロリー計算されたメニューの食事を提供しています。必要に応じキザミやペーストにしたり、禁止食材の設定をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、出来るところは自分でやっていただき、できないところは職員が介助させていただいています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、時間によるトイレ誘導をして介助しています。	フロアに2箇所あり、1つは車いす対応のトイレです。1日3回清掃し清潔で臭いもありません。法人主導で「オムツ外し」「車いす利用を減らす」…等いずれかに励むよう示唆され、当事業所では介護度5の利用者を含む3名のオムツ外しに成功しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や、適度な運動で対応しています。また、往診医、訪問看護と相談し薬による調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけとご希望により対応しています。基本は週3回入浴できるように支援しています。	1日おきに入浴と定めています。湯は2～3人ごとに入れ替えています。それまでは足し湯です。重度化となっても職員の2人介助または本人の負担やリスクマネジメントを回避できるリフト浴が隣接の小規模多機能事業所で借りることができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人の睡眠パターンを把握し、日ごろのパターンに合わせた時間に就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用いて管理しています。また、薬の追加、変更があれば送りノートで伝達をするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様一人一人が生活の中で役割が自然に出来上がっています。また、職員もその都度、声掛けをして出番を作るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したい気持ちを優先できるように心がけ、その場ですぐに対応できるように目標としています。	室内では3名、外出では8名が車いすという状況であっても月1回の外出行事のほかレク外出も用意され、例えば7月は七夕祭り、8月は海洋博物館へと出かけています。外出支援は法人の容認から配置を3名から5名と増やし、安全に十分留意しています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所で管理しています。外出時の買い物はお預かりした金額の中で、買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より了承が得られれば、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物をお客様と一緒に作り掲示しています。温湿度計で空調の管理をしています。	華やかな正月掲示はコーナーに収まり、レク用品をはじめ置き場所も決まっています。気持ちのよい空間です。夜勤帯に床清掃があり、手すりには1日3回拭き上げて感染症対策に余念がありません。ソファに何気なく在るひざ掛けに家庭的な温かみが滲みます。	天井に設置のエアコンに埃がありました。年末の大掃除でおこなったばかりのことですので、今後は定期清掃のエリアに指定することを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が弾みやすいように、お客様の座席位置を考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものをお持ちいただくようお願いして、ご家族と一緒にその人らしい居室づくりをしています。	エアコン、カーテン、介護用ベッド以外備え付けがありませんが、これは収納スペースがないことで持ち込みを増やすことや、衣替え等こまめに家族に訪問を促すことをねらいとしておこなったものとのことでした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室等、色分けしてわかり易くしています。		